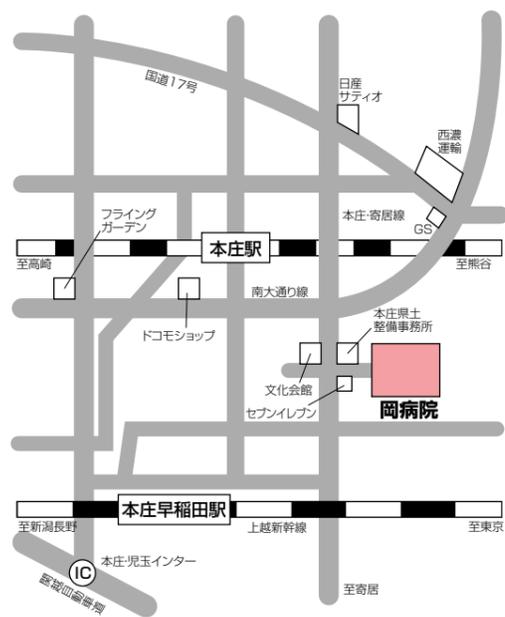


配置図



日本医療機能評価機構認定
医療法人桂水会

岡病院

〒367-0031 埼玉県本庄市北堀810番地
TEL 0495-24-8821(代)
FAX 0495-21-7640(代)
ホームページ <http://www.oka-hospital.jp>

診療時間

午前 9:00~12:30 (受付は12:00まで)
午後 14:00~16:30 (受付は16:00まで)

休診

日曜・祝祭日 ※木曜日は透析外来のみ実施

「地域医療に貢献する。」



医療法人桂水会

岡病院

OKA HOSPITAL

ごあいさつ



岡 治道

医療法人桂水会
岡病院 理事長

透析新棟建設、病棟改修工事が終了し、新たにパンフレットを発行するにあたり院長として一言ご挨拶申し上げます。

地域医療計画策定に際し、病院機能分化が進んだため急性期病床のみであった当院は、平均在院日数21日と言う縛りが御座いました。このため、長期療養を必要とする患者様の対応が出来ず、大変なご迷惑をおかけしておりました。この程、透析新棟開設、旧病棟の改装にあたり、新たに地域包括病床・療養病床を設け、患者様に幅広く対応することが可能となりました。

設備的にはナース・ステーションの改装、電子カルテのバージョンアップ、患者ベッドの自動表示システムの導入、リハビリ室の拡大、患者食堂の新設等、ハード、ソフト両面で大幅な改修工事を行いました。透析新棟では県北部の災害時透析拠点施設の役割を担うため病院全体の電力を賄う自家発電装置、大型貯水タンクの設置を行い、新しい機能を備えた病院として生まれ変わりました。職員一同さらに皆様方に愛される病院となる様勤めますのでこれからもよろしくお願い申し上げます。

基本理念

「地域医療に貢献する。」

基本方針

質の高い医療と看護の提供を目指す。
患者様の立場にたった医療を実践する。

患者さんのための3つの宣言

当院では

- 1 十分な説明を行い、医療を提供します。
- 2 診療情報の開示に協力します。
- 3 セカンド・オピニオン(主治医以外の医師に意見を聞くこと)に協力します。

病院概要

【法人の概要】		診療科目	内科・消化器内科・循環器内科・泌尿器科・腎臓内科・人工透析内科・消化器外科・肛門外科
名称	医療法人桂水会 岡病院	診療日・時間	月・火・水・木・金・土曜日 (午前 9:00～12:30) (午後14:00～16:30) *但し、木曜日は透析外来のみ診療、一般外来は休診とする。
住所	埼玉県本庄市北堀810番地	病床数	許可病床 109床 (一般病床 52床・地域包括ケア病床 24床・療養病床 33床) 外来透析室 120床 入院透析室 13床
設立許可年月日	平成20年3月7日	各種認定	日本医療機能評価機構認定施設 埼玉県子育て応援宣言企業 埼玉県多様な働き方実践企業
目的	本社は科学的でかつ適正な医療を普及することを目的とする。		
【岡病院の概要】			
所在地	〒367-0031 埼玉県本庄市北堀810番地 TEL 0495 (24) 8821 (代) FAX 0495 (21) 7640 (代)		
開設者	理事長 岡 治道		
管理者	院長 岡 治道		
敷地・建物	敷地面積 計19514.54㎡		
建物面積	鉄筋コンクリート造5階建本館他 計6175.19㎡		

施設認定



患者様の権利と責務について

権利

- 1 患者様は症状・治療方針について十分な説明を受け、診療情報を得る権利を持ちます。
- 2 患者様は診療情報を理解する権利を持ちます。
- 3 患者様は治療方針と医療機関を選ぶ権利を持ちます。
- 4 患者様はプライバシーの配慮と秘密を守られる権利を持ちます。
- 5 患者様は希望にて、ほかの専門医に意見を聞く権利を持ちます。

責務

- 1 患者様は当院に症状・既往歴(現状も含む)・保険情報・住所等、診療に必要な情報を正しく伝える責務を持ちます。
- 2 患者様は当院のルールを守り、治療に協力する責務を持ちます。

診療科目

内科・循環器内科

内科は日常よく見られる病気（感染症、高脂血症、糖尿病、痛風、消化器疾患、呼吸器疾患など）を対象に診察します。

循環器内科は血液の循環に関係する臓器（心臓、大動脈、末梢動脈、静脈、肺動脈）に生じる病気を診る科で、具体的には心筋梗塞、狭心症、弁膜症、心筋症、心不全、不整脈などの各種心臓病の他、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症や静脈血栓症などの病気を診ます。循環器疾患と他の内科疾患を合併している場合も多く、病院内外の専門家および近在の専門医療機関と連携して診察します。

健診で心電図などの異常を指摘された時、動くとき胸が苦しくなる、動悸がする、息苦しい、四肢のむくみ、歩行時の足の痛み等は循環器の病気を疑わせます。早期の受診が勧められます。

現在、下記資格を有する医師も勤務しています。

日本内科学会認定内科医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本老年医学会認定老年病専門医

泌尿器科

まず、皆さん、最初に泌尿器と言われても性病？膀胱炎？ぐらいしか思い浮かばないのではないのでしょうか。

簡単ではありますが、まず泌尿器についてお話しさせていただきます。

尿は血液中の水分や不要物・老廃物を腎臓で濾過して排泄される液体状のものです。

腎臓で生成された尿は尿管という腎臓と膀胱を結ぶ30cm程度の細い管を伝って膀胱内に運ばれます。膀胱に溜まった尿は最終的に尿道を伝って外に排泄されます。

この尿の生成・排泄に関わる器官を総称して泌尿器といいます。更に男性では前立腺・精嚢・精管・精巣といった生殖に関わる臓器も泌尿器科分野に含まれます。

当院では各種泌尿器科疾患に対し、専門医2名で診察加療にあたらせて頂いております。

内服加療だけでなく、経尿道的手術や陰嚢・包皮手術、前立腺生検などの外科的処置も行っております。

泌尿器科というと、なかなか足が遠のいてしまう方もいらっしゃると思いますが、そんな時はちょっと勇気を出して受診してみたいかがでしょうか。我々専門医2名ならびにスタッフ一同で皆様の不安を解消出来るよう尽力致します。

地域に根付いた医療を提供出来ますよう職員一同これからも一層精進してまいりますので、ご愛顧の程宜しくお願い致します。

消化器内科・外科・肛門外科

消化器内科は消化管と呼ばれる食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、そして肝臓、胆嚢、膵臓と数多くの臓器を担当しております。さらに各臓器において良性疾患（炎症性疾患、潰瘍、腫瘍、機能性疾患、感染症）や悪性疾患（癌など）が存在し、患者数も非常に多い領域となっています。当院では専門外来は設けてはおりませんが、消化器疾患を診察した外来医や病棟医より連絡や相談を受け、速やかに検査や治療を提供できるよう緊密に連携をとっております。

検査では、レントゲン検査、CT検査、MRI検査、超音波検査、内視鏡検査を行い、様々な疾患に対して迅速な診断から治療に移るべく日々努力しております。治療では、入院加療はもとより内視鏡治療として、消化管出血に対する止血術や消化管ポリープに対するポリパクトミーやEMR（endoscopic mucosal resection）などの治療も行っております。

消化器外科・肛門外科として現在当院で行っている治療は、主に鼠径ヘルニアと痔（内外痔核、肛門ポリープも含む）に対して手術加療を行っております。鼠径ヘルニアは患者さんの病態にもよりますが基本的には2泊3日での入院手術加療を行っております。痔については従来の切除術の他、ジオン注射（ALTA療法）も可能です。患者さん個別の病態にあわせて選択しております。また、一般外科として粉瘤やイボ、褥瘡等に対しても処置や治療を行っております。外来にてお気軽にご相談ください。

腎臓内科・人工透析内科

当科は短期間に急速に腎機能が低下した状態である急性腎障害（AKI）、腎障害が3か月以上持続している状態である慢性腎臓病（CKD）の診断・治療を中心に診察しています。AKIは治療により腎機能の改善が見込めるため、早期診断・適切な治療選択を心掛けています。CKDは患者数が全国で1330万人、成人人口の13%に及び、末期腎不全に進行するだけでなく心筋梗塞や脳卒中の発症率が高く国民の健康を脅かす病気です。当科では早期の治療介入や生活習慣の指導・改善によりCKDの進行を抑制できるように取り組んでいます。末期腎不全へ進行してしまった場合は、透析または腎移植が必要となりますが当院では血液透析を行っており、現在入院・外来合わせて約380名の透析患者さんがいらっしゃいます。血液透析を行うためには、透析を行うための血管（シャント）やカテーテル留置が必要であり、シャント作成は当院泌尿器科で行っています。当科ではシャントが狭窄・閉塞してしまった場合の治療として経皮的シャント拡張術（PTA）や血栓溶解療法、シャントが作成できない方への長期留置型カテーテルの留置を行っています。PTAは年間約230例あり、シャントトラブルのレスキューに励んでいます。また、透析の方は合併症で悩まされることが多く、当院では特に骨粗鬆症の管理やフットケアに力を入れていると共に、生命予後に大きく関わる心血管疾患や末梢動脈疾患に関して他院専門医の先生と連携を取らせて頂き診療にあたっています。

外来棟・病棟

待合いロビー



開放感のある天井を高い空間となっております

リハビリテーション室



急性期から維持期までの幅広い分野で日々活動しています。チーム医療を徹底し、早期の家族及び社会復帰を目指します。

病室



ゆとりのあるスペースを確保いたしました
移動式のクローゼット・テレビも完備しております

入院透析室



入院患者様用の透析室です
外に出る事なく透析を受ける事ができます

食堂・談話室



患者様の為の食堂・談話室をご用意しました。

スタッフステーション



全病棟拡大を行い、
ゆとりのあるステーションとなりました

手術室



対応処置・手術

内シャント設置術
上腕動脈表在化法
経皮的シャント拡張術・血栓除去術
ダブルルーメン挿入術
カフ型カテーテル挿入術
上部・下部内視鏡(スクリーニング・ポリペクトミー)
内視鏡的消化管止血術
鼠径ヘルニア術
痔核手術
経皮的内視鏡下胃瘻造設術

ペースメーカー移植術・交換術
CVポート設置術
気管切開術
皮膚皮下腫瘍摘出術
経直式前立腺生検
経会陰式前立腺生検
膀胱鏡
経尿道的ステント留置術・抜去術
レーザー経尿道的尿路結石除去術
経尿道的前立腺切除術

経尿道的膀胱悪性腫瘍手術
膀胱結石、異物摘出術
尿道狭窄拡張術
膀胱瘻造設術
経皮的腎(腎盂)瘻造設術
腎瘻拡張・カテーテル交換
包茎手術
精巣摘出術
体外衝撃波結石破碎術

等

透析棟



施設設備概要

- ・同時透析台数：120床
 - ・逆浸透圧装置：50床用熱水消毒型装置3台
(2重膜濾過2台)
 - ・透析液供給装置：50床用3台(熱水消毒対応)
 - ・多用途透析装置：20床
 - ・透析装置：100床
 - ・自家用発電機：450kVA、500kVA
 - ・受水槽：90t 2槽
- ※自家用発電機・受水槽完備により大規模災害時でも治療できます。

【1階 ロビー】



採光を十分に取り入れました。

【2階 食堂・休憩室】



・景色が一望できる場所で食事が摂れます。
・いつでも食事が温かく摂れるように、
温冷配膳車を導入致しました。



透析室内のすべての照明が調光可能となっております。



空調は全空気式放射整流ユニット「誘引エアーム」を設置しました。
今までの空調では吹き出し方向により極端な温度差がありましたが、「誘引エアーム」では放射状にゆっくりと空気を吹き出すため、室内均等に空気が広がり温度ムラを感じません。



・ベット間隔は1.7mと広く、車椅子でも十分ベットサイドまで入れます。
・全てのベットに液晶テレビが設置されています。



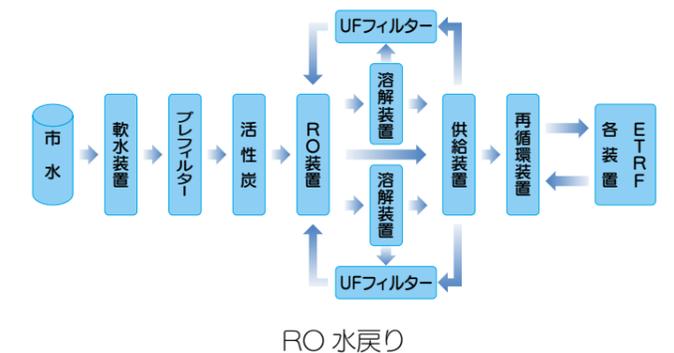
・感染対策として1階・2階にそれぞれ隔離透析室を設け、さらに塵埃を99%除去するHEPAフィルターを設置しクリーン度を高めました。

【1階 透析機械室】



・RO装置全て熱水消毒対応。2重膜濾過仕様。
・RO水、透析液の戻りにUFフィルターを装着。
・室内空調は湿度対策で除湿器を設置しました。

【透析液浄化システム】



主な機器紹介



※ドルニエ社製 Delta II

結石破碎装置 (ESWL)

結石破碎装置は電磁誘導方式により発生した衝撃波を結石に集中させて破碎する装置です。体を切らずに体の外から衝撃波を繰り返し当てることで腎臓や尿管の結石を細かく砕き、尿と共に排出させます。処置時には痛みがほとんどなく麻酔が不要です（鎮痛剤は使用します）。

マルチスライス式 CT スキャナ

1回の撮影で同時に複数の輪切り像が得られる最新型マルチスライス CT スキャナーです。得られた輪切り像から精細な立体像を作ることも可能です。また、当院では最新鋭の画像解析用ワークステーションを設置しており、高精細な3D画像の作成や、大腸 CT 検査（仮想内視鏡検査）を積極的に実施しています。



※ GE 社製 16 列マルチスライス CT

MRI (磁気共鳴画像診断装置)

MRI 検査は強い磁石と特殊な電波の力により人体内部の構造を鮮明にみることができ最新の医療用画像診断装置です。頭部領域の小さな疾患や整形外科領域、体幹部領域などの全身部位の診断に役立ちます。検査はベットに横になっているだけで体の向きをかえることもなく、任意の断層撮像が可能です。造影剤なしでも血管撮像が可能といった特長があります。



※ GE 社製 1.5 ステラ MRI

超音波診断装置

超音波装置は人体に無害で、リアルタイムに体内を観察する事が出来る検査です。当院ではハーモニクイメーキング機能を搭載した最新のフルデジタル装置を採用しております。



内視鏡

消化管の観察や病変部を採取し、病理検査による癌の診断等検査に止まらず、ポリープの切除、食道・胃静脈瘤の硬化療法、食道炎などの薬剤散布、出血部位の止血などの治療の重要な手段となっています。内視鏡の挿入部は細く、しなやかなチューブで、負担を少なくするようデザインされています。また、小さな病変を発見するために「ハイビジョン技術」や「拡大機能」が内視鏡に導入されています。さらに「光デジタル法」による画像強調観察技術（NBI：Narrow Band Imaging = 狭帯域光観察）によって、粘膜表層の毛細血管や深部の血管が強調表示された鮮明な画像から、通常の光では発見しにくかった、ごく小さな病変の早期発見に貢献しております。

外科用レーザー手術装置

経尿道的尿路結石除去術 (TUL) ※当院対応手術

体の外から衝撃波をあてて碎石する ESWL に対し、TUL は麻酔をかけた痛みを伴わない状態で尿道から「尿管鏡」という細い内視鏡を挿入、結石をモニター観察下でのレーザー碎石・摘出を行う治療法です。ESWL は安全な治療法ですが、X線に映りにくい成分の結石や骨盤に囲まれた部分の結石は直接モニターで確認しながらの TUL の方が確実に碎石、摘出が可能です。近年、内視鏡やレーザーの進歩による TUL の安全性・確実性が向上しています。



骨密度測定装置

DXA 法 (Dual Energy X-ray Absorptiometry) という、二種類のエネルギーの X 線を照射し、骨による吸収の差を利用して骨塩量 (骨密度) を測定できる装置を導入しました。当院の全身用 DXA 装置は、骨粗鬆症の診断や治療のため主に腰椎と大腿骨近位部の骨密度を測定します。腰椎と大腿骨近位部は、国際的にも骨粗鬆症の診断に適している観察部位とされています。また「骨粗鬆症 予防と治療ガイドライン」でも骨粗鬆症の診断および薬物治療の経過観察時に腰椎と大腿骨近位部の DXA 測定が推奨されています。つまり、測定値の正確さと、再現性が良いという特徴があります。



※ GE 社製 PRODIGY

